平成２４年度　第６回公立大学法人鳥取環境大学教育研究審議会　議事要旨

○ 日　時　　平成２５年２月８日（金）　１０：００～１１：５０
○ 場　所　　鳥取環境大学　大会議室（本部棟３階）
○ 出席者　　古澤巖学長、高橋一副学長、三野徹学生部長、岡田昭明環境学部長、冨岡庄一経営学部長、秦野諭示環境情報学部長、千葉雄二地域イノベーション研究センター長、上山弘子委員、田中仁成委員、常田禮孝委員、木下法広委員
[11 名/14 名]

【議事】

１　前回議事要旨の確認

原案のとおり了承

２　報告事項

（１）近況報告

事務局から、資料に基づき入試状況、在籍者の状況、平成２４年度就職活動の状況等大学の近況について報告があった。

委員による主な意見等は次のとおり。(○:質問・意見 、→:回答　以下同様)

○入試の志願状況で県内外の比率を「県内からの志願が少ない」という評価をするよりも「県外からの評価が高い」と捉えた方がよいのではないか。

○公立大学として、県内の比率が低いという原因の分析は必要ではないか。

○広報において、「伝える」ということだけではなく「理解してもらう」ということを意識した活動をしてほしい。

○一般市民から大学を見たとき、教員の研究活動よりも学生が街に出て活動をしている方が大学を身近に感じる。

○FaceBook、LINE というような SNS もツールとして意識しておいてほしい。

○大学として公式に SNS ツールを活用するのであれば、しっかりした体制が必要だと思われる。

（２）平成２５年度予算（案）について

事務局から、資料に基づき予算（案）について報告があった。

○実験研究棟の建設を検討するとのことだが、何に使うものなのか。

→現在の施設の状況では、理科教員養成のための実習設備が不足している。また、理系学部である環境学部の教員が、研究活動を行う上での拠点としての実験設備施設は必須であると考えており、そのための環境整備を学内で検討する。

○鳥取県西部からの通学者支援はどのような背景からでたものか。

→昨年は西部から６名、中部から２０名が通学していた。ＪＲの特急料金等を助成するなどし、県内の学生を支援したいという考えからである。

３　審議事項

（１）平成２５年度　年度計画（案）について

事務局から、資料に基づき年度計画（案）についての説明があった。説明に先立ち、本事項は次回の審議会でも継続して審議予定であることが説明された。

○今年度の退学率の実績数値が、来年の目標値よりよい数字である。達成した数字をよりも目標数字を低くしているのはなぜか。

→退学率は年度によってばらつきがある数字であるため、中期目標に明記されている数字を使っている。

○年度計画内に学生のボランティアを西部サテライトキャンパスのみとしているのはなぜか

→特に限定をしている意味ではなく、西部サテライトキャンパスでの活動に特に力を入れる。という意味である。

（２）学長選考会議委員の選任

常田禮孝委員、高橋一副学長、岡田昭明環境学部長が委員として選任された。

４　その他

（１）　新生公立鳥取環境大学運営協議会概要について

事務局から、資料に基づき、２月４日に開催された新生公立鳥取環境大学運営協議会の概要について説明があった。

（２）　平成２４年度「鳥取環境大学と産官学連携に関する懇談」の開催について

事務局から、近況の報告の中で案内があった。